

NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ 会報

STEPっ子パラダイス all for ワ、ダフォー!!

えぬピーおーほうじん
じりつせいかつせんたー
すてっぷえどがわ
かいほう
すてっこぱらだいす
おーるふおあわんだふおー

ねん がつごう
2019年1月号



「わたし、^{すずね}鈴音ちゃん^{もじつうやく}の文字通訳^{もじつうやく}しましょうか？」この
日、STEP^{すてっぷ}に遊び^{あそび}に来てくれたユミ^きさんは、視覚^{しかく}障害^{しょうがい}と
言語^{げんご}障害^{しょうがい}があり、小さな^{ちい}パソコン^{ぱそこん}に文字^{もじ}を^{ちようこうそく}超高速^うで打ち込^こ
みながら^{かいわ}会話を^{かいぎ}します。会議^{かいぎ}に^い飛び入^{さんか}り参加^{さんか}すること
になった^{ぼうとう}ユミ^{ていあん}さん。冒頭^{ぼうとう}の提案^{ていあん}に「いいね！」と盛り上^{もり}がり、
障害^{しょうがい}種別^{しゆべつ}ごっちゃん^{すてき}まぜの^{かいぎ}素敵な^{かいぎ}会議^{かいぎ}となりました。2019年^{ねん}
も^{せんきやくばんらい}千客万来^{せんきやくばんらい}！みなさんSTEP^{すてっぷ}にあそび^{あそび}にきてね♡



目次
も く じ



しんねん あいさつ 新年のご挨拶	2
みちくさ じしゅししゃかいあんど 「道草」自主試写会&トークセッションしました。	7
しゅわけんてい きゅう 手話検定3級にチャレンジしました。	9
な と う き い せかい しょうがいしゃ Natsukiが行く！世界の障害者リーダーとつながろう	11
めざ 目指せ、ベートーヴェン	13
こくさいふくしききてん み 国際福祉機器展2018を見てきて	15
ゆめ み ディズニーランドはバリアフリーの夢を見せるか	17
す て こぼべきゆう かいさい STEっ子BBQを開催しました！	20
にほんじゅう こ くるまいす い 日本中の子どもたちに「この車椅子、かっこいい！」と言ってほしい	21
しゅくとくだいがく りゅうたくさい たいけん 淑徳大学 龍澤祭 ボッチャ体験コーナー	23
すずね しゅわ 鈴音の手話コラム	24
かいいんぼしゅう 会員募集	25



りじちよう いまむら のぼる さい
理事長 今村 登 (54歳)

しんねん
新年あけましておめでとうございます。

さくねん なに へいせいさいご い せいかく へいせい
昨年は何かにつけ「平成最後の〇〇」と言われておりましたが、正確には平成の
さいご ことし がつ にち しょうわ さいご ねん しょうわ ねん
最後は今年（4月30日までである）なんですよね。昭和の最後は1989年（昭和64年）
がつ ついたち なのか しょうわたんのうほうぎよ しゅうかん ぼく
の1月1日から7日（昭和天皇崩御）までのわずか1週間だけだったのですが、僕は
しょうわ へいせい か とき にが せいしゆん おも で とも いま
この昭和から平成に替わる時のことを、ほろ苦くマヌケな青春の思い出と共に、今も
せんめい おぼ
鮮明に覚えています。

とうじ さい ぼく だいがく そつぎょう とうきょう かいしゃ しゅうしよく
当時24歳だった僕は、大学を卒業して東京の会社に就職しておりましたが、
ぎふけん いぬやまし す じよせい こい じよせい じもと ゆうめい
岐阜県（犬山市）に住む女性に恋をしておりました。その女性は地元では有名なべっ
いぬやまじょう せんしゆつ ひと いま い じよゆう やまもと
ぴんさんで「ミス犬山城」にも選出されるような人でした。今で言ったら女優の山本
みつぎ
美月といったところでしょうか。この山本美月似の彼女、実は遠い遠い遠～い親戚に
ひと とお しんせき へじ で あ ねんまえ しんせき なんにん
あたる人なんです。遠い親戚とはいえ、初めて出会ったのは1年前。親戚の何人が
いつしょ い とき おも で ねんかん ふく あ
で一緒にスキーに行った時でした。このスキーの思い出が1年間でどんどん膨れ上が
で あ ねんご ねんまつ しょうわさいご しわす ふたたび い
り、出会ってから1年後の年末（昭和最後の師走）、再びスキーに行くことに。しか
もなんと今度は二人きり（他の親戚がドタキャン、ラッキー（^^）v）。ユーミンのファ
かのじよ あ じょう む びーじーえむ こいびと
ンだという彼女に合わせて、スキー場へ向かうドライブのBGMは「恋人はサンタ
ぶりぎード えいが わたし つ せかい
クロース」「BLIZZARD」。まさに映画「私をスキーに連れてって」の世界。スマホは
おろか、デジカメもなく、フィルム式のコンパクトカメラが使い捨てカメラ「写ルン
しゆりゆう じだい まっしろ ゆき きた はくばだけ
です」が主流の時代ですが、真白な雪をかぶった北アルプス白馬岳とコバルトブルー
は わた そら ぜっけい だい
に晴れ渡った空の絶景をバックに、ストックをカメラ台にしてセルフタイマーをセッ
つ しやしん と
トし、そりやもうツーショット写真を撮りまくっておりました。

とし あ しんねん しょうわ ねん むか ぼく とうきょう もど がつ よつか しごとはじめ
年が明け、新年（昭和64年）を迎えた僕は、東京に戻り1月4日からの仕事始め
のぞ ねんまつねんし かのじよ えがお のうり や つ はな しごと み
に臨んだものの、この年末年始の彼女の笑顔が脳裏に焼き付いて離れず、仕事に身が
はい じょうたい かのじよ あ しょうどう おさ ぼく
入らないフワッフワ状態でした。そして彼女に会いたい衝動を抑えきれなくなった僕は、
しやしん とど りゆう きゆうきよしゅうまつ な ご や あ い いく こと き
スキーの写真を届けることを理由に、急遽週末に名古屋まで会いに行くことを決
がつ むいか きんようび たいしゃ まえ かいしゃ せんばい しゅうまつ しょうぶ
め、1月6日の金曜日、退社する前に会社の先輩たちに、「この週末に勝負してきます！」
つ しんかんせん と
と告げ、新幹線のチケットを取ったのでした。

翌朝、「さあこれから名古屋に行くぞ！」と気合が入ったところでテレビをつけると、「今朝、昭和天皇が御崩御されました」とのニュース。でもって「国民は喪に服して、外出は控えましょう」と、国民総喪に服す状態！そんな中、それでも一度ついた恋の炎は消されはしないと、1億総喪に服す状態をものともせず新幹線で名古屋へ（新幹線を止めなかったJ R東海、偉い）。しかし、東京から約300 kmも離れた名古屋でも、やはり喪に服す状態。ほとんどの店が休業。営業中のお店でも、半分シャッターを下ろして店内の明かりも通常より暗くしていました。そんな全国的に喪に服すべしとされた超しんみりムードの中、「非国民と罵られたっていい」と、僕は愛の告白をしたのでした。（どうだツッチー、これが男ぞ！）

しかし結果は…あっけなく、儚く、且つ滑稽に終わったのでした。

「ありがとう。でもやっぱり『親戚の人』以上には思えないわ」（笑顔）

（僕にとってそれはそれは悲しい返事であるのに、何、その笑顔。めっちゃ可愛いじゃん！嗚呼、フラれてもいい、その笑顔が見れたなら僕は本望ですう…）

続いて、彼女はとんでもないことを口にした。

「今夜、ウチに泊まって、明日ラグビーの試合、一緒に観に行かない？」（笑顔）

（へっ？ あなた今なんておっしゃいました？ フット男をその場で泊まりに来いと？ でもって明日一緒にラグビー観戦へとお誘いになる？）

ええ、行きますとも！（男のプライドはないんかい！）

そうして連れて行かれたのは、名古屋から電車で40分ほど行った岐阜県犬山市。

そう、彼女の実家である。当然で両親もいるし妹さんもいた。

（あっ、ご実家 そうですね…）

実家に招かれると、「やあ登くん、よく来たねえ登君のお父さんとは昔どうたらこうたら…」とお父さん。

「沢山食べてってね」とお母さん。

「へえ、バレーボールの選手してたんだあ。だから背が大きいのね」と妹さん。

まさに親戚のお付き合いそのもの。



翌日は、彼女のお友達数人と一緒に、社会人ラグビー観戦。(あ、お友達もいらっしやるのね…)

当時日産自動車の子会社に勤務していた僕だが、彼女が応援しているという地元トヨタ自動車を一緒に応援し、お母さんからお土産をいただいて帰京した。(もうプライドもへったくれもない)

俺は何しに行ったんだ？でも、彼女の笑顔が見れたからいいか！
白銀の世界で僕を魅了した満面の笑顔、それとほぼ同じクオリティの笑顔で、彼女は昭和の終わりと共に僕の恋に終止符を打ったのだった。

これが、僕にとっての昭和の終わりと平成の始まりだった。

とまあ、ここまでは単におっさんの30年前のくだらない失恋話だが、さて、30年前の僕はまだ受傷前で、障害のない、いわゆる健常者であった。もし、この時すでに障害者であったなら、僕は同じ行動がとれたらどうかと、昭和60年代に想いを馳せてみた。

ネットで調べてみると、どうやら東海道新幹線は1976年(昭和51年)から11号車に車いすスペースを設け始めていることがわかった。ただし、東京駅に行くまでの駅にはエレベーターはなく、階段を担いでもらうしかなかったようだ。介助制度はというと、1986年(昭和62年)4月1日から東京都重度脳性麻痺者介護人派遣事業が、東京都全身性障害者介護人派遣事業となり、この時から頸損もこの制度が使えるようになっていたので、自薦ヘルパーを見つけることができているれば、1日8時間までは介助を受けられていたようだ。自薦なので、直接交渉で外泊も可能だろう。では車いすはどうだっただろうか？現在のように海外製の高性能な車いすはまだほとんど輸入されていなかったらしく、シーティングという概念すらない時代。自分の体に合った車いすに乗れていなければ、名古屋まで行こうという気になれていたかは自信がない。ホテルだってハートビル法ができたのが1994年(平成6年)だから、バリアフリールームなどほとんどなかっただろう。そもそも受傷後、東京で一人暮らしという選択をしていたらどうか甚だ疑問である。

今でこそ、国内外をあちこち行かせてもらっているが、30年前に今と同じような動きをするのは至難の業であっただろう。そう思うと、改めて運動の先人たちの努力に頭が下がる。

さて、今は障害者差別解消法もできたし、障害者総合支援法という国の制度で介助派遣を受けられる。国連の障害者権利条約を批准し、バリアフリー法も改正によるバージョンアップがなされている。国内法はどれもまだまだ改善すべき点はあるに

せよ、それなりに制度は整ってきており、以前より障害者の社会参加はし易くなってきているはずである。ただ、30年前の僕の恋物語（失恋だけど）の様な行動を今やろうとした時、可能だろうか？

交通機関へのアクセスや新幹線の当日利用、ホテル利用はなんとかなるだろうが、このバカバカしい恋物語に付き合ってくれる介助者、事業所がどれだけあるだろうか？

・プランに書かれていないからダメ（書きようがないだろが！んじゃあんたは、いついつ告りに行きますって誰かに予定表出すんか？）

・ちょっと待って、こう言う目的で使っても良いか区に確認してみます（アホか！）

・行ったって、どうせフラれるのがオチ（やってみなきゃ分かんないじゃん！）

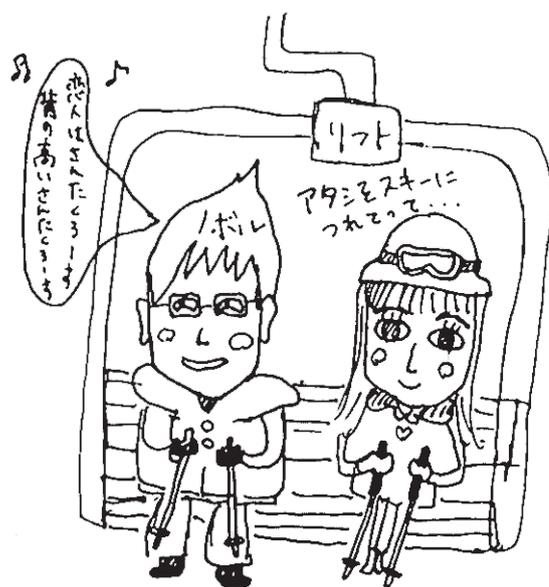
・拘束時間全部を仕事として認めてもらえないならダメ（ウッセーよ！）

・労働時間じゃない時に何かあったら、労災で認めてくれるかわからないからダメ（引くわー）

・急すぎるからダメ（そりゃまあ、そうだけど…）

今のところ、うち（STEPえどがわ）はそこまでゴチャゴチャ言わないでやれる（やろうとしている）と思うが、油断しているといつの間にかプラン最優先の事業所に陥りかねない（これは事業所の代表としての自分自身への戒めでもある）。

もちろん、介助者不足と言う深刻な問題を無視はできないし、応えたくてもどうしようもないこともあるだろうが、告白したい衝動にかられ、全国民総喪に服す様な時でさえ告りに行って笑顔でフラれるという、そんなことをしようとする当事者が現れた時、こんなアホな行動に、「これぞ自立生活！」と言って付き合ってくれる、そういうことに応えること（なんとか応えようとする）を誇り思う事業所であり続けたいと、平成最後の年頭に願うのである。



親元を離れて田舎から出て大学に行き、一般就労し、親の仕送りなしに一人暮らしをして、スキー場で一目惚れをする女性に出会い、急に思い立って新幹線で告白しに行き、撃沈されるも、何故か一緒にラグビー観戦をして帰ってくる。誰に強要された訳でもなく、自分で考え選択し行動した結果であるが、こうした修学、就労、一人暮

らし、スキー、恋愛、失恋、スポーツ観戦、思いつきでの急な行動、etc…24歳の障害のない青年（僕のことですが）が経験した一連のことが、「他の者（障害のない者）との平等」を謳う権利条約を締結した今の日本なら、障害がある青年も同じような選択ができ、成功や失敗を経験する機会が保障された社会になっているだろうか？

障害者関係の制度が大きく前進した平成という時代が終わり、新しい時代へと切り変わって行くが、権利条約の目指す社会にするには、まだまだやらなきゃいけないことが山積している。STEPえどがわのスタッフはもちろん、利用者の皆さん、関係者の皆さんも、ぜひ一緒に考え、悩み、知恵とガッツを絞り出し行動することで社会を変えていけることを楽しみましょう。

さあ、今年もどんな荒波、逆境が訪れるかわかりませんが、どんなときも笑顔をお忘れず、切磋琢磨し、持ちつ持たれつ、依存しあって乗り切りましょう！

今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

～追伸～

平成の終わりと新元号の始まりに、今度は何が起きるのだろうか？

（ツッチーよ、男を見せてくれ！）





ひるかわ りょうこ
蛭川 涼子

おとし すてっぶ じょうえいかい おこな かげ
一昨年、STEPでも上映会を行った「風
は生きよという」の監督、宍戸大裕氏の新作
が出来上がり、劇場公開を前にした2018年
11月8日(木)、篠崎文化プラザ講義室2に
て、STEPえどがわとNPO法人青洞の
いえきようさい いっぱんしゃだんほうじん きょうりよく
家共催、一般社団法人オリオン協力、キリン
ふくしざいだんじよせい ししゃかい
福祉財団助成で試写会&トークセッションを
おこな
行いました。



こんかい かんたく と あ じゅうどちてきしょうがいしゃ ちいきせいかつ じぶん きも
今回監督が取り上げたテーマは重度知的障害者の地域生活。自分の気持ちを
うまくコントロールできなかつたり、言葉にすることが難しかったりする自閉症。
きょうどうどうしょうがい なか たがいこうい びょういん しせつぐ たいはん こうれいしゃ
強度行動障害の中でも他害行為があると、病院や施設暮らしが大半です。高齢者の
かいご もそうですが、かぞくだけのサポートなんて絶対ムリだから仕方ない? ...では
なんにんあつ ちいきぐ じつげん ちてきしょうがいしゃ じゅうほう つか
何人集まれば、地域暮らしを実現できるのでしょうか? 知的障害者が重訪を使うって
どういう感じかな? 介助者はどんな人でどんな生活を送っているのかしら? 江戸川区
でも実現可能なのかしら...

そんなことを、じもと ひと いけんこうかん こんかい
そんなことを、地元の人たちと意見交換したくて、今回のトークセッションを
あ 合わせました。ゲストに来ていただいたのは、おかべこうすけ とうじょうじんぶつ ちち
益留俊樹さん(支援者:自立生活企画代表)。お二人の話はホンの少しで、残りは
ますだめとしき しえんしゃ じりつせいかつきかくだいひょう ふたり はな すこ のこ
参加者同士グループに分かれて感想や質問を出し合い、1時間かけて、ゲストのお
ふたり しつぎおうとう く ひろ
二人と質疑応答が繰り広げられました。

★「道草」試写会に来てくれた方々の感想から一部抜粋

- ・自然な感じでの映像がよかった。
- ・小さい頃からヘルパーと関わる環境が大切だと思った。
- ・色々なパターンを見られて参考になった。
- ・症例歴に関わる機会が少ないので勉強になった。





ぬのかわ ゆう そだ なつき
布川 悠・曾田 夏記

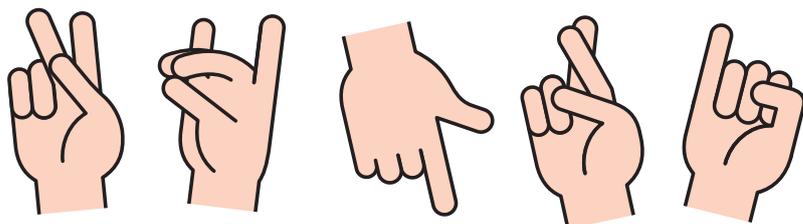
がつ おこな しゅわけんてい すてっぶ ぬのかわあんど そだ じゅけん
9月に行われた手話検定にSTEPから布川 & 曾田コンビが受験しました！
しゅわけんていじゅけん とお かん か
手話検定受験を通して感じたことそれぞれに書いてもらいました。

すてっぶ ちょうかくしょうがい も すずね き はや ねん
STEPに、聴覚障害を持つ鈴音が来て早2年・・・？

こうはい せんぱい すずね ひびたの とき きび しゅわしどう う
後輩ですが先輩のような鈴音に日々楽しく時に厳しく手話指導を受けて、すっかり
しゅわべんきょう わたし いえ たんごおぼ すずね ひろう ひそ
手話勉強がマイブームになった私。家で1単語覚えては、鈴音に披露するのが密かな
たの
楽しみになっていました。

すずね しゃいん どうしよ しゃいん しゅわけんてい きゅうごうかく
そんな鈴音が社員になった当初、「社員はみんな手話検定3級合格して！」との
つうたつ だ
通達を出しました^^；そんなわけで、チャレンジしてみちゃおう〜〜〜となっちゃん
とも きゅうじゅけん き べんきょう おも だいいぶいでいー じむしょ く
んと共に3級受験を決めました。勉強は主にDVD、あとは事務所に来れば、みんな
でワイワイ手話を使えるので、とてもいい環境です。試験当日は台風到来の日！中止
になるのか？！延期になるのか？！ソワソワしていましたが、なんと予定通り強行され
ました。私の心もバクバク・・・大きな台風が到来していました。

しけん ま はじ すべ えいぞう み かいどう けいしき たんご もんだい
試験はあっという間に始まります。全て映像を見て回答していく形式で、単語の問題
しょうじきよゆう わたし うれ かく
は正直余裕の私。嬉しさを隠しきれず、にやけました。しかーしここからが問題で
た・・・指文字問題です。指文字のあ〜んを1文字ずつ表し単語を話す問題。例えば
えいぞう なか
映像の中で、「カキフライ」「アジフライ」「イカフライ」「スーパーフライ」と指文字
あらわ なかまはず かいどう もんだい ひじょう むずか
で表し、仲間外れを回答します。この問題、非常に難しいんですー！！とっても
こうそく ゆび ゆびもじ かんぜん もうてん わたし かた
高速なんです。指が。指文字が完全に盲点だった私は、固まるばかりでした。ちなみ
ほんとう ゆびもじ よ と むずか き かた すずね こうそくゆびもじ
に本当に指文字って読み取るのが難しいんですー！気になる方は、鈴音に高速指文字
み
を見せてもらってください。カッ
コいいです！



カキフライ

そして更に訳が分からなくなっただのが、文章問題です。
えいぞう なか で ひと なに
映像の中に出てくる人が、何か

の出来事についてひたすら語ります。その手話を読み取って、問題にこたえていくのです。

この辺はもうほぼ当てずっぽうになってしまいました；_；

試験が終わると、本当に本当にクタクタでした。ずっと目を使って集中する試験は初めての経験でした。結果が届くのは1か月後。合格すると、試験のマスコットキャラクターであるフクロウのバッジがもらえます。私はそのフクロウをカバンにつけるのを夢見ながら、結果を待ちました。

そして1か月後・・・とても残念なことに・・・不合格通知が届きました・・・

しかし不合格は不合格でも、「不合格A」！不合格にもランクがあり、あと一歩のところでした。悔しい・・・けれど、全然できなかった文章問題。次こそは、もっと余裕で読み取れるようになろうと、心を新たにしました。長くなりましたが、私の3級レポはこんな感じですよ。

STEPでは、毎週手話教室をして、鈴音に手話を教えてもらう時間があります。

その時間は誰もが伝えることに一生懸命だったり、読み取ろうと一生懸命で、すごく充実した時間だなと思います。どんな人にとっても、伝えたいことが伝わることは大きな喜びになるなあ実感します。手話を覚え始めて、改めてそんなことに気づけて本当に良かったです。

これからも、伝える努力や理解する努力を惜しまずに、そして楽しく！！を motto にみんなで手話を勉強していきたいとおもいます。もちろん、3級にもまたチャレンジします！！ちなみに、20人集まればSTEP事務所を会場に試験ができるんですってー。興味のある方、ぜひ一緒にどうですか？（布川）

「4級なら受ける意味ないよ！3級しか認めないからね（^^）」という鈴音の恐怖通達により、3級にチャレンジ致しました。検定後、気が抜けたのか「なっちゃんの手話は劣化するばかり」と鈴音に嘆かれている今日この頃です。

「手話を覚えるよりも、『聞こえないこと』がどういうことか理解してほしい」と



イカフライ

う鈴音のまじめなつづやきを胸にとめながら、これからも手話にとりくみたいとおもいます。（なっちゃん）

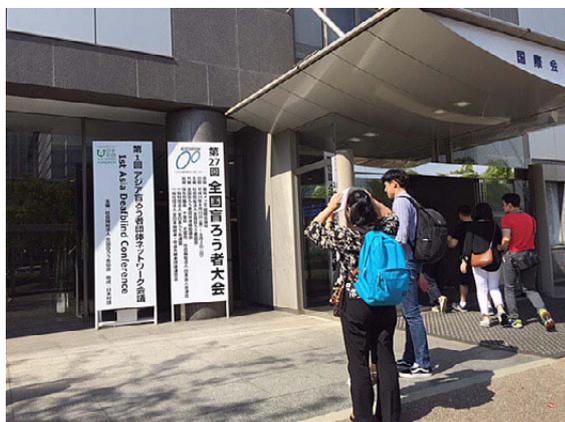


ぼりゆーむ もう しゃかいぎ まき
～ vol.3:「アジア盲ろう者会議にいったよ」の巻～

そだ なつき
曾田 夏記

「ソダナツ、盲ろう者はね、完全に忘れられた民族だよ。」

これは、アッコさん（福田暁子さん・世界盲ろう者連盟事務局長）が、私とのメッセージでの会話でつぶやいた言葉です。そして、「私たちのことを、聞いてくれる障害者を待っているよ」とも。たまーにアッコさんとそんなやり取りをする中で、「盲ろう者」との出会いの機会を作りたい、もっと理解する努力をしたい、という気持ちが大きくなっていました。そんなこともあり、9月に「アジア盲ろう者会議」で日英通訳のボランティアをして欲しいという依頼があった際、「ハイ、やります！」と即答しました。



もう しゃたいかいりくく
盲ろう者大会入口

こんかい かいぎ すてっぷ つ
今回、この会議にSTEPのすずねを連れていくことは、私にとってもう一つの大きな目的でした。すずねは、今年に入り、自ら志願して「盲ろう者向け介助者・通訳者」の資格を取りに行っていました。いつもはおバカなすずちゃんですが、何らかの思いがあって（それは、もちろんうっすら想像できるものでありますが）毎週一生懸命通っているんだろうなと思っていました。

さんか ところ のこ もう しゃ あつ かいぎ
参加してみて、心に残ったことが2つありました。1つは、盲ろう者が集まる会議では、「全員がわかるまで徹底して待つ」「一番時間がかかる人にあわせる」というキリリとした姿勢が貫かれていたことでした。司会のアッコさんは、発する言葉を最小限に抑え、触手話や、指点字などで、さざ波のように伝わっていく通訳を、じっと待っていました。そこには、あたり前のことですが、「この場にいる誰も追いつかない」という強い意思を感じました。わたしにとって、「こうすべきだな」と思える会議の形に実際に触れられたことは、大きな財産になったと思います。

もう一つは、「ふうわ」という盲ろう児とその家族の会の集まりで通訳をした時のことでした。「盲ろう児はグループホームにも入れない」「盲ろう児は決まった作業所しか受け入れてくれない」。親たちが語る現状は、自立生活センターに普段いるだけでは触れられない現状でした。そして、人生で初めて出会った盲ろうの子どもたち。次の世代を生きるちいさな子どもたちに出会うと、やはりとても身の引き締まる想いがしました。



韓国からの参加者が触手話で情報を得ている様子

いまSTEPには、すずねの存在もあって、ろう者・盲ろう者の人たちが関心をもって遊びにきてくれるようになりましたね。「また遊びにきたいな」と誰もから思ってもらえるセンターになっていくように、「盲ろうワールド」で学んだ「みんなを大切に作る」姿勢を徹底していけたらいいなと思いました。



ナトゥーキ、アッコさん、すずね

めざ 目指せ、ベーターゲン

たなか すずね
田中 鈴音



10月9日に川崎で行われた「東京交響楽団 ファンタスティック・オーケストラ～みんなで集えるコンサート～」に参加してきました。

私は聴覚障害がありますが、音楽は好きで、補聴器を装着し使い慣れたヘッドフォンをつけ大音量にして聴いています。ヘッドフォンに手を当てると振動が伝わりますが、その振動も私が音楽を聴くうえで大事な要素です。ライブも好きで小学生の頃から大ファンである、元おバカタレントの某アーティストのライブは年に6回ほど行っていますが、それ以外のライブはほとんど行ったことがありませんでした。大ファンであるアーティスト

のライブで100パーセント楽しむているかということでもありません。同伴者に今、何を歌っているのかを教えてもらわなければリズムに乗れませんし、ライブ中のトークも手話通訳が出来る同伴者でなければ把握できません。(それでも彼のことが大好きなのでライブには行っていますが…(^-^))

今回のコンサートは、共生社会実現を目指して大人も子どもも、障害のあるなしに関わらず、どんな人でも安心して一緒に楽しめるということで初めてオーケストラ鑑賞に行きました。私が案内されたのは、ボディソニック席(体感音響システム席)といって振動装置が組み込まれたポーチと座布団クッションで構成されており、これらのシステムを使用すると、振動が体に伝わり全身で音楽を楽しむことが出来る席です。さらに、中途失聴の人や補聴器を使っている難聴者向けにヘッドフォンやヒアリンググループも準備されていました。残念ながら、私の使用している補聴器はヒアリンググループが対応しておらず、ヘッドフォンも形上、ハウリング(音漏れ)がひどくなってしまう使用できませんでしたが、トーク中は舞台上に司会者の隣に手話通訳がついていたので理解できました。「音楽を聴いて楽しむ」ことは私にとってすごくハ-

ドルが^{たか}高いのですが、^{しんどう}振動があったのでリズムがとりやすかったですし、^{えんそうふうけい}演奏風景には^{あつとう}圧倒されました。中には^{なか}楽器を^{がっき}1つずつ紹介しながら^{しやうかい}演奏していくというプログラムがありました。^{かくがっき}各楽器の音の^{おと}区別が^{くべつ}つかない上に、^{うえ}補聴器を^{ほちやうき}付けて音が入ってきたとしても^{がっき}なんの楽器を^{えんそう}演奏しているのか^{はんだん}判断ができないという、^{がっき}楽器とは^{むえん}無縁の私でも、^{こんかい}今回、^{しんどうそうち}振動装置によって音の^{おと}高低やリズムは^{こうてい}手から^て伝わる^{つた}振動で^{しんどう}少し^{すこ}把握^{はあく}できました。^{ちやうかくしやうがいしや}聴覚障害者でも^{おんがく}音楽が^す好きな人は^{ひと}たくさんいるので、^{こんかい}今回の^{よう}様な^と取り組みは^{つづ}続けて^{おも}いって^ほしいと思います。^{ほか}他にも、^{しかくしやうがいしや}視覚障害者も^{さんか}参加できるように^{てんじ}点字プログラムや^{おんせい}音声プログラムが^{じゆんぴ}準備されていたり、^ふロビーには^{ぶたいもけい}触れる^{ぶたい}舞台模型もありました。もちろん^{くるま}車いす^{せき}席もありました。^{じっさい}実際、^{もう}盲ろう者、^{しや}視覚障害者、^{しかくしやうがいしや}聴覚障害者、^{ちてきしやうがいしや}知的障害者などと、^{しやうがいしゆべつ}いろんな^{ひと}障害種別の人が^{かんしやう}鑑賞して^{こんかい}いました。今回の^{おんがく}オーケストラのように「^{つど}みんなが^ば集える^ば場」が^ふ増えていくといいですね！





国際福祉機器展2018 を見てきて

せきぐち さとし
関口 悟

この会報が出るのは来年なので少し古い話題になるけれど、2018年10月10日(水)に国際福祉機器展2018を見に行ってきた。

重度脳性麻痺者としての視点で言えば、今までは一日かかっても回りきれない感じがしたものだが、今回はあまり見るものがなくて一日で見たいものを見て、それでも時間が余ってしまった。展示会の内容や出展物自体が高齢者介護にシフトして、自分が求めるものとのズレが出てきているのかもしれない。

大企業の新製品は数年に一回出ればいい方で、近年は大企業の出展自体が少なくなった気がする。それが顕著だったのが電動車椅子の展示の少なさ。

クイッキーなどの車椅子の日本代理店だった(株)アクセスインターナショナルが2018年5月末をもって会社を解散して、製造元の米サンライズ・メディカル社と、自動車運転補助装置大手の(株)ミクニ・ライフ&オートとの合併会社「サンライズメディカルジャパン株式会社」に輸入販売権を譲渡して、その新会社としてブースを出展していた。

第44回
国際福祉機器展
2017/9/27*9/29* 10:00-17:30
東京ビメンツサイト
www.hcr.or.jp



この文章を書くにあたって事実関係を確認するためにネットを調べていて、アクセスインターナショナル社が解散した事実を知って驚くとともに、とても残念に思う。

車椅子のシーティングについてはアクセス社に豊富な知識と実績があっただけに、なおさらその思いが強い。

救いだったのは、(株)今仙技術研究所が2019年夏をめどに発売を予定している電動車椅子のプロトタイプ。

撮影禁止だったので画像は載せられないが、クイッキーなどの海外製の電動車椅子に負けないほどの洗練されたデザインと、電動ティルト・リクライニングを装備して、

さらに本体で50kgという軽さに仕上がっている。プ



びあみ 美浴シャワーオール メーカー公式画像より

(<http://www.awi.co.jp/business/medical/welfare/showerall.html>) なさを感じていて、高価な海外製の電動車椅子を2台乗り継いでいるのだけれど、海外製の電動車椅子は高性能で機能やオプションが多い分、公費の補装具費が支給されるケースが殆どなく、自費で高額な価格を支払わなければならない。

修理が必要なきも部品の確保に時間がかかり、その部品自体もとても高額なので、なかなか販売店に修理を申し込めないでいる。今回展示されていた今仙のプロトタイプを見て、国産品もやっとな海外製品に匹敵するレベルに達したかと思う。同時に自分が国産品を軽視していたことをとても後悔している。

あと興味深かったのは、エア・ウォーター（株）が出展していた介護用シャワー入浴装置「美浴シャワーオール」。

病院や介護施設で使われるシャワー入浴装置を家庭の浴室や脱衣所などに置ける大きさにした商品。自宅の風呂が壊れて、職場の自立生活体験ルームの浴室を借りて入浴している身としては「これなら自宅に置けるかも」と思ったけれど、価格が約120万円と聞いて「まだ高い」と断念せざるを得なかった。

さらなる廉価な商品の登場を期待したい。

福祉機器・介護用品・住宅改造のお問い合わせは
 お気軽に当店まで！ 自社工場完備で修理・改造がすぐ！
 — 福祉機器のトータルプランナー —

有限会社 **パムック**



江戸川区南篠崎町 2-16-2 第2相栄ビル3F
 (レンタル車いす・車いす保険も取扱っております)

TEL03(5666)4801 | FAX03(5666)4802

ディズニーランドはバリアフリーの夢を見せるか



あだち しょういち
足立 祥一

2018年10月10日、季節外れの日差しが頭皮を焦がす中、鈴音・曾田・土屋・中曾根（敬称略）と介助の足立、5人でディズニーランド視察に行ってきました。ただの遊びじゃなくて一日中掛けた視察だったらしいです。実は、色んな意味で事前知識皆無だった足立

が現地のバリアフリー状況について感じたことを書きます（ちなみにランドのホームページではバリアフリー情報について詳細に知ることが出来ます）。

まず驚いたのは障害者割引制度が存在しないこと。これはバリアフリーに関する自信の表れでもあるらしいです。

一般的な商業施設などと比べると、例えば洗面台の下に膝が入るようになっている、ほぼ全てのトイレエリアにだれでもトイレがあり中の便器も背もたれが用意されているなど、設備面の充実は確かに感じられました。

他にも障害種別毎に様々な配慮があり

- ・聴覚障害者：貸出端末等による字幕案内の用意
- ・視覚障害者：貸出端末等による各種音声案内、触地図やキャラクター等のイメージを触れて感じるための模型、点字の用意

- ・車いす利用者：行列待機免除・優先案内

（※入場後に予め申請する必要あり）

等々、他の場所ではあまり見られないような設備・対応が用意されています。

その他、病院でしか見ないような注射針回収ボックスが全てのトイレに用意されている様子などは珍しくて面白かったです。





ただ残念ながら夢と魔法だけを見られるほど十分とは言えないと思いました。まず、アトラクション中、自分の車いすのまま楽しめるものが少な過ぎて割引制度なしでは割高に思えます。車椅子スペースについても用意が少な過ぎ（ものによっては逆に極端に多過ぎ）たりして、ちぐはぐな印象がありました。



非常時の避難もスタッフによる対応の準備はなく、介助を含めた自力避難が不可能な客の利用を拒否することで対応済とされている印象です。

個人的に楽しみにしていた手話の出来るキャストは「居る日がある」という程度だそうで、フードのスタッフもとっさに

筆談具を提案する機転などはきかない様子でした。

トイレの優先度も配慮が欲しいところで、例えばおむつ交換台は一般トイレに用意されているものの、その案内が無い結果、だれでもトイレの利用率が高まってしまいう状態がみられました。また、私が席を外している間にスタッフが声掛けをしてくるといようなことが数回あったのですが、中には「介助者は当事者から絶対に離れないで下さい」という意図が含まれているケースすらありました。他にもスタッフの障害理解を深める努力が不足していると感じられる場面が少なくありませんでした。

全体的に対応がマニュアルとして固まり過ぎていて、ソフトというより既にハードで、柔軟なおもてなしによる温かみのあるバリアフリーが無いように感じられたのが残念ですし、今後の対応改善も急激・大幅には望めないような雰囲気を感じました。





そもそもバリアフリーに限った話ではなく、ランド全体として“顧客対応”というより“多人数を処理する”という雰囲気になってしまっているように感じ、昔行ったときはもっと違う印象だった気がしたのですが、これはただの中年の昔語りなんですか…

…ということで、あらためてバリアフリーのハード面とソフト面、両輪のバランスの難しさを感じました。整っていない設備の店などで何とかしようと努力・思案してくれた経験の方が、単純に嬉しくなり、世界のあり方と人の心とが起こす魔法に夢を見られる場合もありますかね？

…とかなんとか言いながらも、シンデレラ城のプロジェクトンマッピングに大興奮で、良い思い出 (NEW!) になった足立なのです。



すてっこ STEっ子 BBQ を開催しました!

なかそね ともあき
中曾根 智明

「♪カーモン・ベイビー・バーベキュー〜♪・・・」と特に意味がなく今年の流行りの曲に乗せてみましたが、今年も恒例のSTEっ子バーベキューを10月20日に開催しました。毎回天候に悩まされるSTEPのイベントですが、今年は天候にも恵まれ多くの方に参加して頂きました。

ヘルパーさんで介助者としてではなく、ボランティアとして参加して頂いた方もいてその方の中で毎回いろいろなお肉を差し入れして頂きますが、今年は巨大ソーセージや骨付き肉を頂きみんなで争奪戦になったりと美味しく食べました。

またこちらも恒例のプレゼントが掛かったジェスチャーゲームも行いました。車椅子ユーザーがお題に沿ってジェスチャーする時はサポートしますが、ある時には足の部分、ある時には手の部分とお互い四苦八苦しながらも笑いを取り、珍回答も連発するなどみんな楽しんで過ごせて良かったです。



またSTEPでは防災に関して地域の方と交流していますが、その繋がりで初めて参加して頂いた方も多数いて今までよりも深い交流もできたと思います。

STEPでは定期的にイベントを行っておりますが、様々な交流会も行っていますので是非参加をお待ちしております。(告知はホームページでも行いますので定期的にチェックをお願いします!!)



日本中の子どもたちに「この車椅子、カッコいい！」と言ってほしい

—江戸川区立南小岩第二小学校との交流授業—

関口 悟

さる2018年10月25日、江戸川区立南小岩第二小学校で吉田、小島両先生の指導のもと、総合学習の一環として4年生の子どもたちとの交流授業を行いました。内容としては、車椅子体験とその感想、そして私たちSTEPへどがわの当事者スタッフに対する質問が主でした。

小学4年生という柔軟性や感受性の豊かな年頃に障害を持つ私たちに接することで、私たち障害者とこの街で共に生きようという気持ちが育ってほしい。そういう思いで、私たちSTEPへどがわと南小岩第二小学校との交流は毎年行われています。

私、関口は今回が初めての参加になります。私がSTEPへどがわの当事者スタッフの中で、脳性麻痺による不随意運動があるのと、言語障害のために意思疎通が難しいので、最初はとても緊張して学校に通う子どもたちの反応に神経質になっていました。

それが実際に子どもたちと接しているうちに精神的な緊張が少しずつほぐれていって、子どもたちとうまく話すことができました。そして、子どもたちの中から「この車椅子、ロボットみたいでカッコイイ！」という言葉が出て来たときはとてもうれしかったことを覚えています。

私が乗っている車椅子はスウェーデン製の電動車椅子で、背もたれがリクライニングしたり座面ごと後ろに傾けることができることや、デザイン的にもアニメやSF映画に出てくるような未来的なものだったからかもしれませんが。

手足が思うように動かないために車椅子に乗ることは決して恥ずかしいことではない。自動車や鉄道、家電製品など世の中の技術の多くは人間の機能を拡張するものだから。それは車椅子を始めとした福祉機器も例外ではない。

日本の福祉機器は低価格でかつ海外製品に引けを取らない機能を持っています。それに優れたデザインが加わるなら「私も使ってみよう」と思う人も増えるはずですよ。

出来ることならば日本中の車椅子ユーザーが、私と同じように小学生の子どもたちに「この車椅子、カッコイイ！」と言われてうれしい気持ちになってほしい。その喜びは色々なバリアのある今の社会で生きていくうえで、大きな力になるはずだから。そういう思いで、これからも私は積極的に街に出ていこうと思います。



しゅくとくだいがく
淑徳大学
 大学祭
 だいがくさい

りゅうたくさい
龍澤祭

ポッチャ
 体験コーナー



つちや みねかず
 土屋 峰和



ことし なんかいめ 今年で何回目になるだろうか。しゅくとくだいがく がくえんさい
 「龍澤祭」への参加は。過去にはうどん屋さんや
 くるまいすたいけん しゅつてん 車椅子体験などを出店していましたが、ことし
 りゅうたくさい にちめ ねん がつ にち 龍澤祭では1日目の2018年10月27日に「ポッチャ
 体験」として出店することになりました。

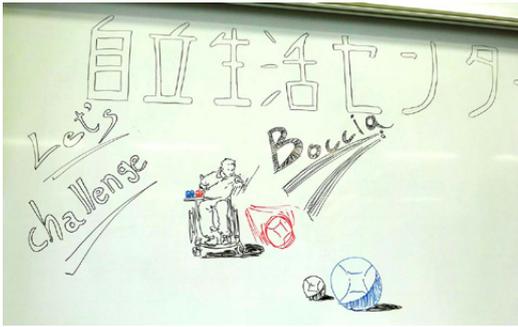
ポッチャとはヨーロッパで生まれたしょうがいしゃ
 スポーツのこと。ポッチャはイタリア語で木のボールとい
 う意味で、実際に使うのは、直径約10cm、重さ
 いみ じっさい つか ちよつけいやく センチメートル おも
 270gほどの革製のボール。ジャックボールというしろ
 いボールに、あか あお わ 赤と青に分かれた自チームのボールを、
 いか にちか 近づけるかというゲーム。シンプルなゲーム
 でイメージとしては

ちか ぎじゅつ
 カーリングに近い。シンプルではあるけど、技術や
 せんじゅつ おくぶか いっぱつきゃくてん かのうせい
 戦術などが奥深く一発逆転の可能性も。

ポッチャのポイントは、じゅうど しょうがい さんか
 重度の障害でも参加がで
 きること。ボールを投げられなくてもプレーできる。
 もともとじゅうどのうせいまひしゃ ししじゅうどきのうしょうがいしゃ
 重度脳性麻痺者や四肢重度機能障害者のた
 めにこうあん 考案されたスポーツなので、ボールを投げられ
 ない人は、ランプというこうばいぐ つか
 勾配具を使いかいじょしゃ
 介助者にサポートしてもらうこと
 もルールとして認められています。
 もちろんしょうがい ていど
 障害の程度によりクラスが
 わ分かれていて、とうぜん
 当然のことながら同
 じクラス同士で対戦します。

このポッチャ、とうきょう
 東京 2020 オリパラ





きょうぎたいかい せいしきしゆもく ちゅうもく あ
 競技大会での正式種目となっていて、注目を浴び
 てきています。でも、実際のところよく知らない
 ひと おお 人も多いんじゃないかという気もしています。そ
 こで学生さんや来場者の方々に実際にプレーして
 もらいながら知ってもらおうと出店しました。こ
 の龍澤祭にはSTEPえどがわだけでなく、
 ほかのしょうがいしゃだんたい さんか おお 多くのひと々に知
 てもらうにはとても良い場ではないかと思ひます。
 お子さん連れのご家族の参加が多かったように
 かん 感じますが、学生さんや一般の多くの方々に体験
 していただきました。時にはスタッフも一緒にプ
 レーし交流にもなったのではと思ひます。

こんかい がくさい べつ だいがく ボランティアの学生さんもお手伝いに来ていただき
 ました。準備や運営、そしてボッチャ体験もしていただき、STEPえどがわの活動
 に触れながら一緒に楽しめたのではないかと勝手に思っています。来年も参加予定
 ですので、是非手伝いに来てください。ボランティア
 さん大募集です。



連載シリーズ

vol.4

鈴音の手話コラム

「ヴァンサンへの手紙」を見て 田中 鈴音

10月13日から11月29日まで渋谷のアップリンクで公開された「ヴァンサンへの手紙」という映画。

この映画は一人のろう者の男性が社会での生きづらさを抱え自ら命を絶つところから始まります。彼から、ろう者が生きづらい社会の現状や、ろう者の葛藤などを聞き、ろう者のことを世間に知ってもらうための映画と一緒に作る予定だった聴者の女性が監督（レティシア）です。ヴァンサンが旅立った後、レティシア監督はヴァンサンの遺志を継ぎ、この映画を完成させています。

ヴァンサンはろう者で、家族は聴者であり、口話教育で育っています。そのため、聞こえないことを否定され苦しんでいました。レティシア監督がろうコミュニティに関わる中で出会ったろう者もヴァンサンが抱えていたような複雑な感情が閉じ込められているのを感じ取りました。手話が禁止され、社会からも抑圧されたろう者の人権は何なのか。ヴァンサンの心にあった苦しみ、怒り、そして願いは何だったのか。考えさせられる映画です。

「ヴァンサンは私だ」私が映画を見終えてまず思ったことです。私の境遇も背景もまさにヴァンサンが生きてきた環境そのものです。聴者の視点から、聞こえるように、話せるようになりなさい。と言われ続けてきた、ヴァンサン、そして私。なぜ、聞こえない自分を受け入れてくれないのか。そのようろう者の置かれている立場をありのままにみせてくれる映画でもあります。



ところどころ、レティシア監督が、亡くなったヴァンサンに手話で語りかけるシーンがあるのですが、涙なしでは見れませんでした。

音楽に合わせてろう者達が手話を紡ぎ出すシーンも、美しく、綺麗で感動しました。ろうコミュニティに深くかかわっていたレティシア監督だからこそ、ろう者と対等な関係で視線を合わせつつ撮っていて、違和感がありませんでした。ぜひ、多くの人に見て欲しい映画です。

上映は終わってしまいましたが、もし自主上映ができるようになれば、STEPで上映会をしたいと思っています。その時はぜひご参加ください。

かいじん ぼりゅう 会員募集

すてっぶ STEPえどがわは、すてっぶ STEPポリシーとすてっぶくんもとしょうがいしゃの自立生活に係わる様々な問題に取り組み、ひいては地域に根ざした社会貢献団体になることを目指しています。

つきましては、とうほうじん かつどうしゆし さんどう みなさま かいじん せいさんじよ 賛助) になっていただき、とも じりつせいかつ すてっぶ えどがわを させ、そだ くだ なかま ぼしゆう 育てて下さる仲間を募集します。

せいかいじん せいかいじん とうほうじん ていかん さだ そうかい さんか
正会員 (正会員は、当法人の定款に定めた総会に参加できます)

- とうろくりよう 5,000 えん にゆうかいじ
・登録料 5,000 円 (入会時のみ)
- かいひ 5,000 えん ねん
・会費 5,000 円/年

かいじん さんじよかいじん
サポーター会員 (賛助会員)

- こじん 1 くち えん ねん くちいじょう
・個人 1 口 3,000 円/年 (1 口以上)
- だんたい ほうじん 1 くち えん ねん くちいじょう
・団体・法人 1 口 10,000 円/年 (1 口以上)

かいじん とうほうじん かんこうぶつ あんない とう そうふいた
会員には、当法人の刊行物、イベント案内チラシ等を送付致します。

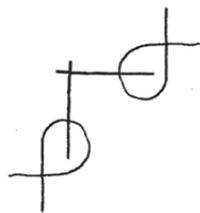
かいひのうにゆうさき
会費納入先

ゆうびんふりかえ じりつせいかつ
<郵便振替> 自立生活センターステップえどがわ No.00110-0-579238

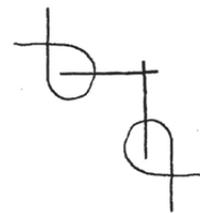
ぎんこうこうざ とくていひえいりかつどうほうじんじりつせいかつ
<銀行口座> 特定非営利活動法人自立生活センターステップえどがわ

みつびしゆーえふじえーぎんこう みずえしてん ふつう
三菱UFJ銀行 瑞江支店 普通 0548550





編集後記



へん しゅう こう き



わがや せいご げつ 2 か月でやってきた愛猫カルロス。うちに来たばかりの頃は必死に私の車いすをよじ登っていたのが、1歳5か月の今では推定2mの食器棚にもかる一く登れるようになりました。常に高みを目指す彼の姿勢からは学ぶべきものが多いと日々感じています。そして登ったは良いが下りられなくなって泣いちゃう愛しきカルちゃんを救助するため、今日も私はハシゴになります。(工藤)

へんしゅう
編集 :

とうきょうとしていきよたくしえんじぎょうしゃ
東京都指定居宅支援事業者
とくていひえいり かつどうほうじん えぬぴーおーほうじん
特定非営利活動法人(NPO法人)
自立生活センターSTEPえどがわ
じりつせいかつ すてっぷ

〒133-0065 とうきょうとえどがわくみなみしのぎまち
東京都江戸川区南篠崎町3-9-7
でんわ ふあつくす
TEL 03-3676-7422 FAX 03-3676-7425
うえぶ
WEB <http://www.step-edogawa.com/>
めーる
E-mail main@step-edogawa.com

